

今だから考えたい 鶴ヶ島の防災

熊本地震に伴う支援のお礼

平成28年4月14日以降に発生した熊本地震によって亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様、そのご家族に対しまして、心よりお見舞いを申し上げます。

市では、被災地の一日も早い復興を願い、義援金の受付けを始めるとともに、熊本県に職員を派遣するなどの支援を行いました。

募金箱を、市役所1階ロビーや各市民センターなどに設置し、福祉政策課(市役所2階)、鶴ヶ島市社会福祉協議会(市役所6階)、若葉駅前出張所(ワカバウォーク内1階)にて現在も受付けを行っています。

市民の皆様からは暖かいご支援をいただき、心から感謝申し上げます。災害はいつどこで起こるかわかりません。そのときに、どう考え、どう行動すべきなのか。

市では、災害時に備え、今後も様々な対策を行ってまいります。また、東日本大震災からの復興や、熊本地震での被災地への支援が必要な限り、一人ひとりができることを、できる範囲で実践していきます。引き続き市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

鶴ヶ島市長 藤縄 善朗



皆さんからの善意

市に寄せられた義援金
(平成28年5月20日現在)

日本赤十字社の義援金
120万5398円
共同募金会の義援金
73万8437円



倒壊の恐れのあるブロック塀



危険度判定の理由を書いて貼付

鶴ヶ島市から熊本県へ職員を派遣

市では、4月26日～28日まで、職員1名(応急危険度判定士)を派遣しました。



資産管理課
白井大晃主任

「派遣した職員に聞きました」
現地での家屋などの危険度判定

私は、熊本市と益城町において、二次被害を防ぐため、主に建物外観から基礎壁、屋根、周辺の状況を確認し、危険度の高い順に赤・黄・緑の紙を貼っていきました。家屋などの危険度判定を行う中で、今回は特に、屋根の瓦が崩れ落ちたり、ブロック塀が倒れている家が多かったです。住民の方々からは、「このまま住んでいても大丈夫か」、「瓦が落ちないようにするにはどうしたらよいか」などの不安や相談の音が聞かれました。余震により瓦が落下しないよう、ずれの生じているものはすぐに撤去した方がよいなど、一軒一軒説明をして回りました。

大切な日頃の対策

家の外側は無事でも、室内で家具などが倒れ、その下敷きになって怪我をされた方もいました。避難経路を確保し、転倒を防ぐためにも家具を正しく固定することが大切です。また、救援物資が届くまでの間、自活できるように3日分くらいの食料を備

鶴ヶ島が被災したときの備えを

問合先 安心安全推進課防災担当

「鶴ヶ島市地域防災計画」を改定しました

地域防災計画は、災害対策基本法に基づいて作成されるもので、市における防災・減災を進めていく指針となるものです。

東日本大震災や台風、大雪、竜巻などの気象災害を受け、これらの災害に対応するため、国・県の関係法令・計画が改定されました。「鶴ヶ島市地域防災計画」についても、新たに、必要な対策を盛り込み、改定を行いました。

①地震被害想定

平成24～25年度の埼玉県地震被害想定調査に基づき、鶴ヶ島市に最も被害をもたらすと想定されている「関東平野北西縁断層帯地震」

をこの計画の地震被害想定としました。なお、調査による各想定地震の被害想定は下表のとおりです。

②近年の発生災害への対応
埼玉県でも発生している竜巻、突風被害や大雪被害の対策並びに今後、危惧されている火山噴火降灰対策について、新たに盛り込みました。

③市民コメント制度に寄せられた意見も採用しました。

指定避難所での一人当たりの占有面積を2㎡から3.5㎡に変更
・航空機事故災害対策の追加など

閲覧場所

市役所1階情報公開コーナー、各市民センター、市ホームページ、中央図書館

指定緊急避難場所・指定避難所一覧

鶴ヶ島第一小学校	県立鶴ヶ島清風高等学校
鶴ヶ島第二小学校	富士見市民センター
新町小学校	大橋市民センター
杉下小学校	西市民センター
長久保小学校	東市民センター
栄小学校	南市民センター
藤小学校	北市民センター
南小学校	女性センター
鶴ヶ島中学校	鶴ヶ島海洋センター
藤中学校	脚折近隣公園
富士見中学校	富士見中央近隣公園
西中学校	鶴ヶ島南近隣公園
南中学校	

備蓄品

市役所の防災倉庫や市内小中学校に防災備蓄教室を整備し、物資を備蓄しています。市では、非常食、保存食について、災害時避難者数の1.5日分の備蓄計画を進めています。【平成28年4月1日現在の備蓄状況 アルファ化米16,950食、保存水(2ℓ) 9,900本】

防災用井戸

市内小中学校全てに防災井戸を設置し生活用水の確保に努めています。また平成28年3月28日に養命酒製造株式会社と「災害時における井戸使用に関する協定」も結んでいます。

災害情報を発信

- ・防災行政無線
- 迅速に情報を伝えるため、市内各所に設置しています。
- ・ツイッター、フェイスブックなど



通信手段が限られることを想定し、SNSなどを活用した情報発信を行います。そのほか、市の防災対策の詳細は、市ホームページから「防災」で検索してください。

防災行政無線による

全国一斉の緊急地震速報訓練

日時 6月23日(木) 10時15分ごろ

内容 市内に設置してある防災行政無線および防災ラジオから緊急地震速報の訓練放送が流れます。

放送内容 「(チャイム音) こちらは、防災つるがしまです。ただ今から訓練放送を行います。(緊急地震速報チャイム音+緊急地震速報 大地震です。大地震です。これは訓練放送です。)×3回 こちらは防災つるがしまです。これで訓練放送を終わります。(チャイム音)」

※緊急地震速報チャイム音は、実際の緊急地震速報と同じ警報音が流れます。
※災害時などは、訓練を中止する場合があります。

被害項目	東京湾北部地震	茨城県南部地震	元禄型関東地震	関東平野北西縁断層帯地震	立川断層帯地震	
最大震度	5強	5強	5強	6強	6弱	
全壊数(棟)	0	0	0	159	1	
半壊数(棟)	3	1	0	1,014	88	
焼失数(棟)	冬18時(風速8m/s) 2	2	2	20	4	
断水人口(人)	-	3,154	0	14,740	6,447	
避難者数(人)	1日後	6	6	5	887	45
	1週間後	216	6	5	1,925	291
	1ヶ月後	6	6	5	3,162	45
帰宅困難者数(人)	夏12時 4,331~5,480	2,697~4,549	3,846~5,341	5,733~6,039	5,466~5,750	



復興に向けて

余震が続く中でも、まちでは少しずつ復興の動きが見られました。家の中の片づけが行われ、廃棄物が至る所に積まれました。熊本県では長い間、地震によるここまでの大きな被害はなく、東日本大震災もどこか別世界の出来事として捉えていた方が多かったようです。日頃から、個人として、行政としてそれぞれが様々な事態を想定し対策を講じるべきだと思いました。決して他人事ではありません。

蓄しておく必要があると思います。私も現地では、非常食のアルファ化米を食べましたが、温かいものが食べたいと思いました。水道水もまだ飲めませんでした。

現地の職員も日々変化する現場の状況に翻弄され、対応しきれないようでした。行政としては、被災した場合の備えはもちらんのこと、救護物資や支援の手を効率よく受け入れ、復興までを視野に入れた体制づくりを考えておくことも重要だと思いました。